熊井の森通信

２０２４年2月１日発行　第２６号

発行/熊井の森トラスト基金

〒３５０－０３１４　埼玉県比企郡鳩山町
楓ケ丘２－２－１かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール　kawasemi3001@gmail.com

☎０４９－２２７－３００１　FAX０４９－２７２－７０９２　ホームページ　https://hatoyama.info/

２月・３月の活動予定

■埼玉未来大学で環境フォーラムの活動紹介

２月８日（木）午前１０時１５分より、西部学園（ウエスタ川越）で「人生１００年時代における市民活動のすすめ」（主催・公財いきいき埼玉）と題した講演依頼あり。環境フォーラムの活動を紹介してきますが、我々の活動に新たな仲間が増えることを期待して、頑張ってきます。

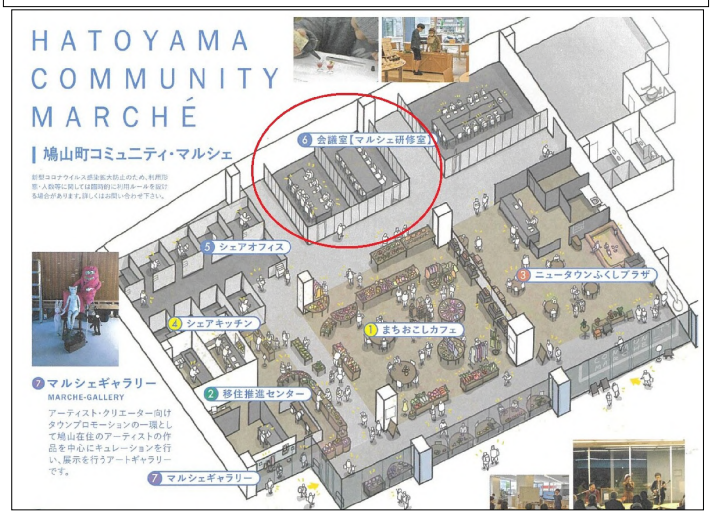
■あなたの知らない鳩山の「絶景」写真展

２月１６日（金）～２０日（火）、鳩山NT内ふれあいセンター1階コミュニティ・マルシェ研修室で、町内外の写真愛好家に協力いただき、「えっ、鳩山にもこんな絶景があったんだ！」と思わせるような風景写真を展示して、鳩山の自然の魅力に目を向けてもらう写真展を開催します。

・熊井の森ドローン撮影の四季の風景
・熊井の森のモミの巨木
・虹のかかった熊井の森
・東山沼の夜桜
　など１０点

そして、外国の若者を含む１４人の熊井の森写真学校の受講者たちの自薦の「この1点」と、はがきサイズのアラカルトフォト。さらに講師の三森典彰氏の素晴らしいネイチャーフォトとを展示する「作品展」も同時開催します。

２０２３年度（公財）サイサン環境保全基金助成事業。後援・鳩山町。写真展の開催中は、関係者が店番をしています。ぜひ、会場に足をお運びになりお声がけください。



【会場】鳩山町コミュニティ・マルシェ　研修室
埼玉県比企郡鳩山町松ヶ丘１－２－４
かわせみハウス正面前　☎０４９－２７２－７５２８

２月・３月　その他の活動予定

２月　４日（日）８時半～　資源回収
２月１０日（土）午後１時～　写真展最終準備作業
２月１３日（火）２月定例理事会＆例会
２月１６日（金）午前９時半～　写真展会場づくり
２月２０日（火）午後１時～　写真展会場撤収
２月２７日（火）「熊井の森通信」２７号発行
３月　３日（日）午前８時半～　資源回収
３月１２日（火）午前９時～　３月定例理事会＆例会

１月の活動報告

■熊井の森写真学校の今年度最終回を開催

1月27日（土）今年度『第7期写真学校』の5回目最終回を開催しました。今回の撮影場所は農村公園。『冬を見つけよう』『木立の中の太陽の輝きや水面のさざ波の表し方』などに注目して撮影会を行ないました。真冬でありながら青い空に陽が輝くなか、サザンカの花や味のあるアジサイの枯れ枝、昆虫の越冬姿、木立を通して差し込む日の輝きなどにカメラを向けました。三森先生の講評のあと、話合った結果、2024年度の第8期写真学校も開催しようということになりました。来年度からは泉井交流体験館とのコラボ企画です。どんな写真教室になるかワクワクです。

■「鳩山の絶景写真展」へ向けてパネルづくり

１月２７日の写真学校の終えた後、皆んなで2月16～2

0日開催『あなたの知らない鳩山の絶景写真展』（鳩山コミュニティーセンター内１Fマルシェ研修室）に向けて、各自が撮影した写真のパネルづくりをしました。大きくプリントした写真をパネルにきれいに貼るのは、なかなかに難しい。「空気をいれないように」「斜めにならないように」とお互いに話し合いながら作業をし、まずまずの出来上がりに、皆んなで安堵しました。力作（？）を見に、会場へお越しください。

■『ハトムギつくろう会』（仮称）本格始動

この春、栽培4年目を迎える『ハトムギ』を、希望者でバッチリと栽培していこうというグループが誕生しました。具体的な事柄はこれからですが、「まずはやっていこう」とやる気だけは満々。1月26日の2回目のミーティングでは、ハトムギ栽培候補地を参観。以前より広い土地にちょっとドキドキしながら、ハトムギの穂がなびく姿を想像しました（気が早い）。参加したい方、どなたでも大歓迎です。希望者には、自分専用の畝に好きなものが育てられる共同家庭菜園用の畑も用意する予定です。今、注目の「協生農法」（最小限の手をかけるだけであとはほったらかし。それでも家庭で食べる無農薬の安心野菜が育つという農法）などの話もちらほら。取り組みグループ名も考え中です。

■かわせみの箱絵が寄贈される

昨年１２月、越谷市在住の酒井路子さんから、木箱の底にかわせみを描いた素晴らしい絵画をご寄贈いただきました。環境フォーラムの事務所建物の名前が「かわせみハウス」であることがご縁のようです。鳩山には時々お越しになり、町中を散策されていて、熊井の東山沼周辺を描いた絵もあるとのこと。今度、拝見させていただくつもりです。ありがとうございました。箱絵はかわせみハウスの玄関ロビーに飾ってありますので、お立ち寄りの節はご鑑賞ください。

■令和５年能登半島地震に義援金を

はとやま環境フォーラムは、鳩山ニュータウン住民自治会と共に、先の能登半島地震の被災者を支援するため義援金箱を設置しています。様々な催しなどでかわせみハウスにお立ち寄りの際に、義援金のご協力をお願い致します。寄せられた義援金は赤十字社を通して現地にお届けします。

地球規模で考えて見えてきたコロナパンデミックの真実

北川泰三

今まで、身近な地域づくりを仕事での主な対象としてきましたが、定年・再雇用となり、この数年の世界の変化で、再び地球社会に関心を移さざるを得ない事態となりました。そして、我々が生きている間に、日本復活に貢献せねばと思うようになりました。

現在の地球上で最強の国はアメリカです。その大統領選挙が今年11月にありますが、他所の国の話といえ、トップが誰になるかで世界が大きく変わるわけですから、地球の未来を決める重要なイベントです。実は地球のボスを決める裏側には、軍産複合体や国際金融資本家が大きく関わり、今は、医薬研産複合体も関与し、また、世界政府をつくって、地球を管理をしようとする動きがあります。

1950年代には、急増する地球人口に対処するため、大富豪の自称賢人たちが考えた人口抑制・削減の「家族計画」（避妊・人工中絶の普及、感染症の普及、悪性ワクチンの接種）を考えました。1971年に世界経済フォーラム（WEF）がつくられ、各国のリーダーが集まり、世界の経済問題を改善する場としてダボス会議が開かれ、今回の未曾有のコロナパンデミック中の2021年には「グレートリセット」（経済システムの変革）が提唱されました。さらにこれに先立つ2004年に、ニューヨークロックフェラー大学で、野生生物保全協会（WCS）主催の国際シンポジウム「ワンワールド・ワンヘルス～グローバル化した世界の健康に学際的な橋を架ける」が開かれ、その結果、人・家畜・野生動物の間を伝播する感染症の現状と対策が検討され、その後「マンハッタン原則」が採択されています。

つまり、人獣共通感染症研究をはじめとする人類を中心とした地球環境管理がはじまったわけです。

こうした動きと相まって、研究者間では、ウィルスの機能獲得実験やmRNAワクチン研究が行われ、昨年10月のノーベル生理学・医学賞には、新型コロナウイルスのワクチン開発で大きな貢献をしたカリコ博士（ビオンテック副社長）らが選ばれました。コロナパンデミックにワクチンが間に合ったからです（実際はその逆です）。また、地球温暖化を逆手に取った脱炭素社会を目指す動きにも地球管理の仕掛けが組み込まれていると思います。その結果、例えば、EUでは、オランダの酪農家に３割削減指示がでていると聞きます。

また、世界保健機関（WHO）ではパンデミック条約改正・国際保健規則改正が協議され、5月総会で決議されようとしています。もしも決議されると、パンデミック時には、医薬研産複合体がさらに儲かる仕組みになっているようです。WEFが進めていたワクチンパスポートも義務化されます。

今回のコロナパンデミックは、「コロナ・ワクチンはプランデミックだった」という指摘を米大統領選挙に立候補しているJFケネディの甥、RFケネディJrがしています。国立感染症アレルギー研究所長のアンソニーファウチ博士を中心に策謀が図られたということです。日本では7回目のmRNAワクチン接種がはじまっていますが、世界では日本だけです。さらに、新たなワクチンとして、Meiji seikaファルマのレプリコンワクチン（sa-mRNA）が年末に承認されるなど、日本の経済団体が総力をあげて進めています。例えば、mRNAワクチン工場は、経産省から莫大な補助金がでています。研究組織としては、2017年に東大生産研にワンワールド・ワンヘルス連携研究機構ができ、2022年10月に次世代感染センター（河岡拠点長）ができ、この春には、柏キャンパスにワクチン特化の研究施設が稼働します。こうしたワクチン製造に必要な半導体は、熊本に5000億円の補助で建設した半導体工場（台湾TSMC）が担うとされています。パンデミック条約改正は、武見敬三厚生労働大臣が、WHO親善大使の時から準備され、ワクチン接種やデジタル推進を担ってきた河野太郎大臣は、WEFに積極的に参加しています。WHOの資金提供しているのはビル・ゲイツや医薬大企業群であり、今回の動きには大きく関与・操作しています。

2023年には日本以外の国では接種が止まりました。止まらないのは日本だけです。政官財ぐるみで進めている人命軽視、金儲けのワクチン接種のため、一部の良心的な研究者、医者が警告を発しても、無視されるか、情報発信を妨害されているのが現状です。

地球規模で考えると、流々述べてきたようなことがわかってきています。地域での行動としては、お年寄りにコロナを移さないように敢えて接種するというのは大きな間違いで、むしろ免疫を上げる食生活、接種による後遺症の明確化・支援、そしてこれからのワクチン接種については、くれぐれもスルーすることを望みます。

※もう少し知りたい方は下記をご覧ください。

資料①「仕組まれたコロナ・ワクチンとその背景」
https://https://drive.google.com/file/d/16AdwYYjFTxuZy1cvShWYrWFxsbK-hCWq/view?usp=share_link
資料②「行動を起こした釧路市議会の意見書」
https://https://www.city.kushiro.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/011/465/ikensho_r521.pd

【プロフィール】高校生のとき、ローマクラブの「成長の限界」を読み衝撃。筑波大学で生態学を学んだあと、都内のある財団の仕事で国や自治体の調査研究のために全国各地を訪問し、雑誌企画編集も担当。数年前から、都市計画・建築の知人と「縮小都市研究会」を発足。東京圏のニュータウンをテーマとした研究事例として鳩山ニュータウンにも何度か足を運び、研究成果をまとめた「縮小時代の地域空間マネジメント ベッドタウン再生の処方箋」（2020年3月、公人の友社）を出版。月１回自宅の練馬から坂戸西IC経由で鳩山ニュータウンを通って深谷の実家に通っている。

ニーハオ　熊井の森歳時記

冬でも採れる野の苺

▲フユイチゴ

私は木の実に特に興味を持っていますが、初めて冬苺（フユイチゴ）に出会ったとき一目惚れしてしまいました。真冬の林の地面に、可憐な赤い実がとても目立ちました。でも、茎が低すぎて、気を付けないと見逃しやすいかもしれません。「思いつつ草にかがめば寒苺」（杉田久女さんの俳句）のように、愛でてあげたいなら、しゃがんで低姿勢でないとやや無理ですね。

赤い実はぷにゅぷにゅとした透明感がある集合果で、生でも食べられますが、やや甘酸っぱいです。採るときは要注意。一見弱々しい細いツルには小さな棘がたくさん付いています。葉っぱにも鋸歯があります。このような自己防衛術のおかげで延々と繁殖することができるのでしょう。

世界中で740種とも言われるキイチゴ属の中に、あえて寒い冬に実るのは僅かしかありませんが、野生の冬苺はその中の貴重なひとつです。熊井の森のほか、熊井の黒石神社の境内、銀河の丘の雑木林などいろんなところに生える冬苺は、寂しい冬に彩りを与え、まるで一年間の休止符を打つかのように咲いて実らせ、新しい春を待っています。(王菲)

森の中へ

～ 自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り① ～

クスノキ

1月20日に講師串田さんにガイドをお願いした「熊井の森を歩こう」の観察会でいろいろ学びがありました。

草が枯れ、木の葉が落ちる森で、どんなことが学べるか、私にとって、よい時間を過ごすことができました。

まず、来るべき春を準備している植物について、多く観察することになりました。

それは、主に「クスノキ科」の灌木で、次のようでした。

「クスノキ科」クロモジ、ヤマコウバシ、アオモジ、タブノキを同定できました。これらは、常緑広葉樹で、緑が目立つのでこの時期に見つけやすいです。

これら以外にも同じ科で、ダンコウバイ、アブラチャンなどがありますが、又の機会に観察したいと宿題もできました。

「クスノキ科」以外にも、ウワミズザクラ、ニワトコ、ヤマウグイスカグラ(6月に赤い実が食べられる、マンサクよりも早く咲きだす木の花、ウグイスカズラとの見分け方）、ムラサキシキブ（ヤブムラサキとの見分け方）、ウマノミツバなどがありました。

トラスト7号地では、講師からこの湿地には植物の絶滅危惧種、希少種がたくさんあり、そのようなものをしっかり守る必要があることを指摘いただきました。(HK)

▲ヤマコウバシ(ｸｽﾉｷ科)

＜活動雑記＞

■第４１回ナショナル・トラスト全国大会での環境フォーラムの活動報告が、主催団体の２月号の会報に載ります。報告内容を上手くまとめていただきました。■１月１５日、武州・入間プロジェクトの「活動パネル展示」会場(写真）へ。会場移転がカーナビに反映しておらず大慌て。■ゴルフ場と締結した環境保全協定原案作りでお世話になった小川町の馬場信一さんが、その後は町有地7.3haの雑木林で里山の復元を目指す「小川町里山クラブ」で活動されていた。同じような道をたどってきたことに感無量。■「熊井の森通信」次号には、滑川町在住で、「沼と人」をテーマに活動されているアートコーディネーター小林三悠さんの原稿が掲載されます。乞うご期待。（愛場）

熊井の森トラスト基金へ支援金を

★1口5，000円から

＜振替口座＞　■ゆうちょ銀行
記号番号　00210−4−143207
加入者名　熊井の森トラスト基金

＜普通口座＞　■ゆうちょ銀行　支店　〇三八
口座番号　9472664
口座名義　クマイノモリトラストキキン
（熊井の森トラスト基金）

★年会費3，000円支援の場合

■ゆうちょ銀行　店名　〇三八　店番038　普通預金
口座番号　96656981
口座名義　ﾄｸﾋﾞﾊﾄﾔﾏｶﾝｷｮｳﾌｫｰﾗﾑ